

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472400324		
法人名	社会福祉法人 日就会		
事業所名	グループホーム 悠里の郷	ユニット名	さくら
所在地	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12-1		
自己評価作成日	平成 年 月 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは本年2月より看護師を配置しました、また月1回の専門医(精神科)の回診があります。同法人の歯科衛生士の指導があり、利用者様の健康管理は万全である。・毎月モニタリング評価会議を実施し、入居者様一人ひとりのケアの見直しを頻繁に行い生活援助計画へと繋げている。・当ホームの内部は床暖房設備になっており、又居室、トイレの十分な広さが確保されており。外部はウッドデッキがあり、庭が広く畑もあり、緑が多い住みやすい環境が整っている。・ホーム専用車が確保されている。・同法人が近隣にある為、いつでも協力体制がとれるような状態にある。・亶理町は温暖な気候と水、空気、食べ物がとても美味しく大変住みやすい町で、そこに当ホームはある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの優れている点は、天井が高く天窓で採光も良く床暖房設備も整っており、居室は8畳とゆったりとした広さを確保しているところである。また、地域とのつながりを大切にしている。いも煮会に児童館や老人クラブの人達が参加し、入居者と交流を図っている。農業改善クラブの人達が野菜や花の植え付けに來たり、近隣の方から米、野菜などの差し入れがある。小学校の学芸会や運動会には招待状が來るなど地域との交流が図られている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年3月11日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて來ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所:グループホーム悠里の郷

「ユニット名

さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの理念一覧を全スタッフに配布している。また玄関入り口に基本理念を掲げ、スタッフの統一を図るよう実践している	管理者の研修会で毎回理念について議題にあがるので、その都度見直しを行い日々のサービスに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お互いの行事を通して、地域の皆様との交流を図っている	ホームのいも煮会に児童館の子供たちや老人会の人々が参加して入居者と交流している。農業改善クラブの人達が花や野菜の種を植えて来てくれる。近隣の住民から米、大根、サトイモ、枝豆などの差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修等で学ぶ機会はあるが、地域の人々に向けて活かしていないのが現状である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の割合で運営推進会議を実施し、GHの取り組み及び状況報告を行っている。また行事(芋煮会、会食等)にも参加して頂き、GHの生活の様子を見学して頂く機会を持っている	2ヶ月に1回地域包括支援センター・役場福祉課職員も参加して会議を開いている。インフルエンザに関する公的支援や法人苑長による介護社会の現状についての話題が出され、双方向的な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村と共にサービスの質の向上への取り組みを心掛けているが、現状では情報交換する機会が少ない	運営推進会議に役場の福祉課職員が積極的に参加している。現在スプリンクラーの見積りをしてもらっている段階である。話し合いやいろいろな相談について助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書の中で身体拘束をしないとしている。又全職員が身体拘束について正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束を行っていない	身体拘束についてすべての職員に周知徹底し実践している。日中は、居室や玄関に鍵をかけないし言語による抑制や禁止なども見られない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員が虐待についての研修をうけ、他の職員に説明や話し合う機会を持ち、虐待防止へと努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年より成年後見人制度を利用している入居者がいる為、学ぶ機会があり活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するものは必ず家族が理解、納得されるまで十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、入居者、家族がいつでも意見、要望を表わせるような環境を整えている	入居者やその家族には意見や要望などを述べる手立てがあり、ホームではその意見などを運営推進会議に報告し運営やサービスの向上に活かしている。壁に職員の名前と写真をはり出したところ好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者はいつでも職員の意見や提案を聞ける体制にある	職員からアンケートを取り、入浴、食事などの各種委員会を活用して意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の実績、勤務状況などを把握し職員の配置を行う等、仕事への意欲向上へとつなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた外部での研修や、定期的な内部の勉強会などを行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	仙南グループホーム協会の打合せなどではできるだけ参加するよう心がけている。法人内での交流は図れているが、感染症の流行もあり外部との交流は少ないのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の不安な事などを聞く機会を作り、個別対応する事により、本人の安心と信頼関係に繋がるよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は、入居者様と共に御家族から相談や心配事などをお伺いすると同時に、随時電話連絡や面会時などに話す機会を設け、御家族様の安心と信頼関係に繋げるよう心掛けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて状況、支援すべき事を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活リハビリ、行事等を共にし、入居者様と一緒に過ごし共有するよう心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時等に十分な情報交換を行う等、接する時間を設け信頼関係が築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所へドライブや馴染みの美容院の利用など、関係が途切れないよう努めている	食堂や近くの「鳥の海」、家族との墓参り、美容院、衣料品店などこれまでの生活の延長線が途切れないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、食席、生活リハビリ等を配慮し、良好な関係が築けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも、必要に応じ近況報告や相談等を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し支援している	一人ひとりと接する時間を多く持ち、思いを引き出せるように心がけている。何気ない言葉や表情などの小さな気付きを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時には、生活歴や生活環境、生活の様子などをお伺いしている。スタッフ間で共有する事により、これまでの生活歴を把握し理解した上で入居後の生活へと繋げている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの状態を把握し、個別に応じた環境で生活できるように支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討用紙を作成し、全スタッフの意見を反映させ介護計画を作成している。作成時には本人、御家族様の意向を取り入れている	介護計画はすべての職員で話し合っって作成し毎月モニタリング、3ヶ月に一度見直しを行い、家族にも確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の生活の様子を記録し、課題や気づきの点があった場合、その都度申し送りや解決に向けて話し合いを行っている。又スタッフ申し送りノートなど活用し、情報の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、御家族様などの状況に応じて柔軟に支援、対応出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握出来ているが、それを積極的に活用できていないのが現状である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、御家族様などの希望の医療機関を利用して頂いている。必要に応じて職員から、かかりつけ医と情報提供を行っている	南浜病院の認知症専門の精神科医が協力医で1ヶ月に1回全員の入居者が診察を受けている。必要な場合は家族にも説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年2月より看護師が配置され、介護員の情報が申し送りされ、又入居者様が直接相談・看護を受けられるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期退院に向け、医療機関と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年2月より常勤の看護師が配置されたことにより、重度化、終末期に向けて今後、家族との話し合いや支援取り組んでいきたい。	以前看護師が配置されていたときに入居者が重態に陥ったり終末期を迎えたりした場合の方針を作成している。今後、看護師が配置され以前作成した方針を再検討して看取りを実施する姿勢を示している。	最期の看取りに係る方針を関係者と話し合って統一的に成文化し、全職員にも周知徹底して頂きたい。また家族にもその方針を説明して意向を確認し、同意を図るよう早期に実現することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員消防署にて救急救命講習を受講しており、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施し、入居者様の安全を第一に考え避難できるように取り組んでいるが、地域との協力体制までは築けていないのが現状である	年2回防災訓練を行っている。法人の老人施設と夜間想定呼び出し訓練のみを行っている。職員全員が消防署で救急救命講習を受講しており、訓練でも役に立つと思われる。また、有事に備え非常食も確保している。	災害対策に関するマニュアルを充実させて定期的に訓練を実施して頂きたい。現在夜間想定訓練が行われていないので早期に実施することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりに合わせた言葉掛けや対応を行い、個人情報の厳守とプライバシーを損なわないよう配慮し支援している	職員は本人を尊重して呼びかけ、人前で恥ずかしい思いをさせない様に目立たない言葉で話しかけ、本人の了解を得て居室に入りしている。入居者に接する職員の態度は適切であり入居者はのびのびしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様一人ひとりの思いや希望を表したり、自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活のペースを守り、その人らしさを優先に支援できるようにと努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の個性に応じた髪型や身だしなみの支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事、誕生会等では入居者様が食べたいものを取り入れ、食事が楽しめるよう工夫している	職員は入居者の力を活かしながら一緒に買い物、調理、食卓の準備と後片付けなどを行っている。食事の献立は法人の栄養士のアドバイスを受けている。食事を同じものを食べ和やかであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士と相談しメニューを作成している。又、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後自立している方には声掛けを行い、支援を要する方には職員が口腔ケア、義歯洗浄を行い、清潔保持へと繋げている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄チェック表の記録を行い、排泄パターンを把握している。又、個別的な排泄支援(排泄誘導、排泄用品など)を行っている	職員は排泄点検表などを利用して入居者の排泄の仕方を把握し、個別に適切な排泄誘導を行っている。中には病院を退院後おむつが取れた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時乳製品(牛乳、ヤクルト)を提供している。個別にヤクルトや牛乳を購入し毎日摂取している方もいる。又、必要に応じて下剤を使用し対応している。おやつ前にはリハビリ体操を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様のご希望に合わせて午前、午後の対応を行っている	職員は入居者のこれまでの生活習慣や好みに合わせて毎日でも入浴できるように支援している。中には長い時間ゆっくり入浴する入居者もいるが職員は規制していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の傾眠時間を個別の記録へと反映させ、睡眠パターンを把握している。希望する方には湯たんぽを使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様に合わせて手渡し服用、見守り服用などにより、服薬支援を行っている。又、入居者様毎に薬の一覧表を作成し、薬の副作用を職員が把握している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴を把握し、役割や楽しみへとつながるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望により、ホーム周辺の散歩など戸外に出掛けられるよう支援している。又、普段行けないような所へは家族の協力を頂き、対応している	法人の老人施設で月2回売店が開かれ、入居者も楽しみにしている。また「鳥の海」や「巨理公園」、日帰り温泉など積極的に外出するように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理については、お小遣い程度の金銭を金庫にてお預かりしているが、希望する方には金銭を所持して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはいつでも電話を使用できる体制にある。年賀状や手紙のやり取りが出来ている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節毎の草花、装飾品などをホーム内に飾り、和室にて掘りこたつの設備も整え、和風を貴重とした環境作りに努めている	照明がまぶしかったり暗かったりしていない。換気が適切に行われ臭気や空気のよどみがない。居室や食堂などの温湿度を適切に管理している。お雛様のキルトや入居者が作った作品も飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂フロア、談話室ソファ、和室の掘りこたつなど環境を整え、一人ひとり自由に過ごせる共有空間を確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れ親しんだ家具を持ち込んでもらい、今まで生活してきた暮らしに近づけられるよう工夫している	家族には本人のなじみのものや使い慣れたものを持ってきてもらうように働きかけ、それぞれの入居者が家族や職員の支援を得ながら自分に適した居心地の良い居室を作っている。居室は8畳あり、ゆったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人ひとりに出来る事を見つけ出し、引き出しながら自立支援へと繋げている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472400324		
法人名	社会福祉法人 日就会		
事業所名	グループホーム 悠里の郷	ユニット名	はぎ
所在地	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12-1		
自己評価作成日	平成 年 月 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://yell.hello-net.info/kouhyou/">http://yell.hello-net.info/kouhyou/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成22年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは本年2月より看護師を配置しました、また月1回の専門医(精神科)の回診があります。同法人の歯科衛生士の指導があり、利用者様の健康管理は万全である。・毎月モニタリング評価会議を実施し、入居者様一人ひとりのケアの見直しを頻繁に行い生活援助計画へと繋げている。・当ホームの内部は床暖房設備になっており、又居室、トイレの十分な広さが確保されており。外部はウッドデッキがあり、庭が広く畑もあり、緑が多い住みやすい環境が整っている。・ホーム専用車が確保されている。・同法人が近隣にある為、いつでも協力体制がとれるような状態にある。・亶理町は温暖な気候と水、空気、食べ物がとても美味しく大変住みやすい町で、そこに当ホームはある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームの優れている点は、天井が高く天窓で採光も良く床暖房設備も整っており、居室は8畳とゆったりとした広さを確保しているところである。また、地域とのつながりを大切にしている。いも煮会に児童館や老人クラブの人達が参加し、入居者と交流を図っている。農業改善クラブの人達が野菜や花の植え付けに來たり、近隣の方から米、野菜などの差し入れがある。小学校の学芸会や運動会には招待状が来るなど地域との交流が図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホーム 悠里の郷 )「ユニット名 はぎ 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「のんびり 共に 笑顔で 楽しく」という理念を全職員が共有し実践へとつなげている	管理者の研修会で毎回理念について議題にあがるので、その都度見直しを行い日々のサービスに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事等を通し近隣の児童館や老人会等と地域の一員として交流している	ホームのいも煮会に児童館の子供たちや老人会の人々が参加して入居者と交流している。農業改善クラブの人達が花や野菜の種を植えて来てくれる。近隣の住民から米、大根、サトイモ、枝豆などの差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修等で学ぶ機会はあるがまだまだ地域の人々に向けて活かせていないのが現状である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設長や区長、民生委員、地域支援包括センター、役場福祉課、家族代表の方々と会議を行い、その意見をサービス向上へと活かしている	2ヶ月に1回地域包括支援センター・役場福祉課職員も参加して会議を開いている。インフルエンザに関する公的支援や法人苑長による介護社会の現状についての話題が出され、双方向的な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて情報交換の場をもうける等協力関係を築けている	運営推進会議に役場の福祉課職員が積極的に参加している。現在スプリンクラーの見積りをしてもらっている段階である。話し合いやいろいろな相談について助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書の中で身体拘束をしないとしている。又全職員が身体拘束について正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束を行っていない	身体拘束についてすべての職員に周知徹底し実践している。日中は、居室や玄関に鍵をかけないし言語による抑制や禁止なども見られない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、ユニットリーダーが虐待についての研修を受け、他の職員に説明しながら虐待防止へと努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等にて成年後見制度について学ぶ機会があり活用できる環境にあるが、利用されている方はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するものは必ず家族が理解、納得されるまで十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、入居者、家族がいつでも意見・要望を表わせるような環境を整えている	入居者やその家族には意見や要望などを述べる手立てがあり、ホームではその意見などを運営推進会議に報告し運営やサービスの向上に活かしている。壁に職員の名前と写真をはり出したところ好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者はいつでも職員の意見や提案を聞ける体制にある	職員からアンケートを取り、入浴、食事などの各種委員会を活用して意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の実績、勤務状況等を把握し、職員の配置を行う等、仕事への意欲向上へとつなげている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた外部での研修や、定期的な内部の勉強会等を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	仙南グループホーム協会の打合せなどではできるだけ参加するよう心がけている。法人内での交流は図れているが、感染症の流行もあり外部との交流は少ないのが現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は必ず入居者の話を聞き、本人の安心へとつなげるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は入居者とともに必ず家族にも話を聞き、安心へとつなげるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の希望に応じ、支援すべき事を見極め対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日食事等行動を共にし、入居者と一緒に過ごし支えあっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時等に十分な情報交換を行う等接する時間をもうけ、信頼関係が築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの場所へドライブや馴染みの美容室の利用等関係が途切れないよう努めている	食堂や近くの「鳥の海」、家族との墓参り、美容院、衣料品店などこれまでの生活の延長線が途切れないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し食席や生活リハビリ等を配慮し良好な関係が築けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも必要に応じ近況報告や相談等を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し支援できるよう努めている。すべての希望を聞くのは困難であるが出来る限り意向に沿うよう支援している	一人ひとりと接する時間を多く持ち、思いを引き出せるように心がけている。何気ない言葉や表情などの小さな気付きを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時に生活環境等を伺い、入居後の生活へとつながるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの状態を把握し、一人ひとりに応じた暮らしができるよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時に本人、家族の意向を聞き反映している。また、毎月モニタリング会議にて担当者との話し合いを行っている	介護計画はすべての職員で話し合っって作成し毎月モニタリング、3ヶ月に一度見直しを行い、家族にも確認してもらっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々生活の様子を記録し、気づきがあった場合はその都度話し合い解決へとつなげている。また申し送りノートを活用し情報の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族等の状況に応じ柔軟に対応できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握できているが、それを積極的に活用できていないのが現状である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望の医療機関を利用して頂いている。必要に応じ職員からかかりつけ医と情報提供を行っている	南浜病院の認知症専門の精神科医が協力医で1ヶ月に1回全員の入居者が診察を受けている。必要な場合は家族にも説明している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本年2月より看護師が配置され、介護員の情報が申し送りされ、又入居者が直接相談・看護を受けられるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期退院に向け医療機関と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本年2月より常勤の看護師が配置されたことにより、重度化、終末期に向けて今後、家族との話し合いや支援取り組んでいきたい。	以前看護師が配置されていたときに入居者が重態に陥ったり終末期を迎えたりした場合の方針を作成している。今後、看護師が配置され以前作成した方針を再検討して看取りを実施する姿勢を示している。	最期の看取りに係る方針を関係者と話し合って統一的に成文化し、全職員にも周知徹底して頂きたい。また家族にもその方針を説明して意向を確認し、同意を図るよう早期に実現することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員消防署にて救急救命講習を受講しており、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っているが、地域との協力体制までは築けていないのが現状である	年2回防災訓練を行っている。法人の老人施設と夜間想定呼び出し訓練のみを行っている。職員全員が消防署で救急救命講習を受講しており、訓練でも役に立つと思われる。また、有事に備え非常食も確保している。	災害対策に関するマニュアルを充実させて定期的に訓練を実施して頂きたい。現在夜間想定訓練が行われていないので早期に実施することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合わせた言葉掛けを行い、誇りやプライバシーを損なわないよう配慮し支援している	職員は本人を尊重して呼びかけ、人前で恥ずかしい思いをさせない様に目立たない言葉で話しかけ、本人の了解を得て居室に入り込んでいる。入居者に接する職員の態度は適切であり入居者はのびのびしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりが思いや希望を表わしたり自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等ある程度の一日の流れは決まっているが、それ以外は一人ひとりのペース、希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりに合わせたおしゃれができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の際は入居者に野菜の皮むき、盛り付け等を手伝って頂き、また食事も入居者、職員と一緒に食べる事で食事が楽しみになるよう支援している	職員は入居者の力を活かしながら一緒に買い物、調理、食卓の準備と後片付けなどを行っている。食事の献立は法人の栄養士のアドバイスを受けている。食事を同じものを食べ和やかであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士と相談しメニューを作成している。また、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には毎食後声掛けを行い、支援を要する方には職員が口腔ケアの支援を行い清潔保持へとつなげている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入、活用し一人ひとりの排泄パターンの把握に努め支援している	職員は排泄点検表などを利用して入居者の排泄の仕方を把握し、個別に適切な排泄誘導を行っている。中には病院を退院後おむつが取れた例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日便秘予防の為牛乳・ヤクルト・ヨーグルト等を摂取して頂いている。また、必要に応じ下剤を使用し対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日はある程度決まっているが、入居者一人ひとりの希望を優先し入浴支援を行っている	職員は入居者のこれまでの生活習慣や好みに合わせて毎日でも入浴できるように支援している。中には長い時間ゆっくり入浴する入居者もいるが職員は規制していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの生活のリズムに合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者一人ひとりの服薬の効果、副作用ともに理解しており、常時症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の生活歴を把握し、役割や楽しみへとつながるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望によりホーム周辺の散歩等戸外に出掛けられるよう支援している。また普段行けないような所へは家族の協力を頂き対応している	法人の老人施設で月2回売店が開かれ、入居者も楽しみにしている。また「鳥の海」や「巨理公園」、日帰り温泉など積極的に外出するように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭所持の希望があった場合は家族と相談し家族の了解のもと所持、使用できるよう対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはいつでも電話を使用できる体制にある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ等で心地よく過ごせるよう配慮している。また入居者に不快感を与えないようテレビの音やカーテン等の配慮を行っている	照明がまぶしかったり暗かったりしていない。換気が適切に行われ臭気や空気のよどみがない。居室や食堂などの温湿度を適切に管理している。お雛様のキルトや入居者が作った作品も飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や自室、共用の和室等入居者一人ひとりが思い思いに過ごせるような場所を提供している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に入居者一人ひとりの馴染みのものを持参して頂き、本人が居心地良く過ごせるよう支援している	家族には本人のなじみのものや使い慣れたものを持ってきてもらうように働きかけ、それぞれの入居者が家族や職員の支援を得ながら自分に適した居心地の良い居室を作っている。居室は8畳あり、ゆったりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室には表札を設置し、出来る限り混乱を招かないよう配慮している		